

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

187号
2025年12月16日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

東京高裁宛て
行政訴訟署名

5524筆

（25年12月16日）

1・23東京高裁に大結集を

不採用基準の策定に関わった井手正敬は証人として法廷で不当解雇の真実を語れ



国鉄分割・民営化から38年、解雇撤回を求め続けてきた闘いは大きな山場を迎えています。次回裁判に向け「1047名解雇撤回・JR復帰」東京高裁署名運動へのご協力と1月23日の第2回裁判への大結集を呼びかけます。

裁判の最大の焦点は、国家的不当労働行為の真実を知る井手正敬・JR西日本元会長、深澤祐二・JR東日本会長を証人として法廷に呼べるかどうかです。

国鉄分割・民営化時の解雇は、「選別基準そのものが不当労働行為」と最高裁で確定しています（15年6月）。そして「JRは不当解雇に関わっていないから責任もない」とい

う国とJRの主張の前提は崩れています。

「隠された真実」を直接知るのが井手・深澤です。井手は「選別解雇の基準策定を命じたのはJR」という最大の核心を直接知る最後の人物です。深澤は選別を直接行った下手人です。真実を明らかにするために、この2人を法廷に呼ぶ以外ありません。

国鉄分割・民営化は、当時の中曽根首相が語ったように「国労・総評をつぶし立派な憲法を安置する」ことを狙った労働運動解体・改憲・戦争攻撃でした。だからこそ、この闘いは〈現在の攻防点〉です。労働運動を解体し、社会のす

■1047名解雇撤回第2回裁判

1月23日（金）15時30分 東京高裁101号法廷
※東京高裁包囲デモ 集合14時 日比谷公園霞門



べてを戦争国家へ作り変える攻撃との闘いです。井手・深澤の証人採用を実現し、国家的不当労働行為の真実を明らかにしよう。

「新自由主義と闘った30年」

民主労総結成30年労働者大会に参加

11月7日〜10日、勤労千葉は訪韓し、民主労総の結成30周年という歴史的節目となる労働者大会に参加した。5万人がソウル市街を埋め尽くした労働者大会など各地で旧知の同志との再会を果たし、日韓労働者の固い団結を再確認した。

8日、ソウル・東大門付近の路上を封鎖して開催された「チョンテイル烈士精神継承・全国労働者大会」は、圧巻の光景となった。1995年の結成から30年。会場には全国から集結した5万人の組合員と色鮮やかな組合旗がたなびき、民主労総の力を強さを誇示した。

集会冒頭、初代委員長クオ・ンヨギル氏が登壇。「民主労総は常に闘いの先頭に立ち、勝利を切り拓いてきた。正規・非正規の差別のない職場を作り、米国の経済侵略に抗する自主的・平等な社会を立てる闘いに突き進もう」と訴えた。

続いてヤンギョンス委員長が演説に立ち、「この30年は新自由主義との激闘の歴史だった。民主労組の旗を誇り高く守り抜いた」と振り返り、「次の30年に向け、すべての労働者のための民主労総として、新しい時代を主導しよう」と呼びかけた。

勤労千葉もこの30年は国鉄分割・民営化攻撃以後の闘い、そして新自由主義との激突を共にしてきた過程だ。120万組合



9日には、軍事独裁時代からの伝統を持つ九老工業団地にある民主労総ソウル本部を訪れ、キムジノク本部長らと交流。その後、19年に開館した「チョンテイル記念館」を見学。

「勤労基準法を守れ」「私たちは機械ではない」と叫んで焼身決起したチョンテイル青年の生涯に向き合い、訪韓団は労働解放への誓いを新たにしました。

11月29日、君津市上総公民館にて「久留里線の廃線を許さない住民集会」が開催された。主催の「久留里線と地域を守る会」をはじめ、内房線・外房線・かずさ地域の住民団体が共催。会場は、廃線方針を強行するJR東日本と、それに追従する君津市への怒りに包まれた。

会の三浦代表は冒頭、「石井市長が廃線に賛同する中、改めて亀山・松丘・久留里を回り署名を集めた。総力でこの危機を

“久留里線の廃線を許すな！”

11・29住民集会に130人が結集

乗り越えよう」と決意を表明。共催団体からも、「久留里線の廃線は全国のローカル線廃止に拍車をかける」（内房線・梅澤代表）、「鉄道はネットワーク。地域分断は地方消滅に直結する」（外房線・早川会長）、「住民の税金で作られた線路に、JRの生殺与奪の権利はない」（かずさ・安田会長）と、強い弾劾の声が相次いだ。

集会では、日本大学の桜井名誉教授が「鉄道は電気・ガスと

